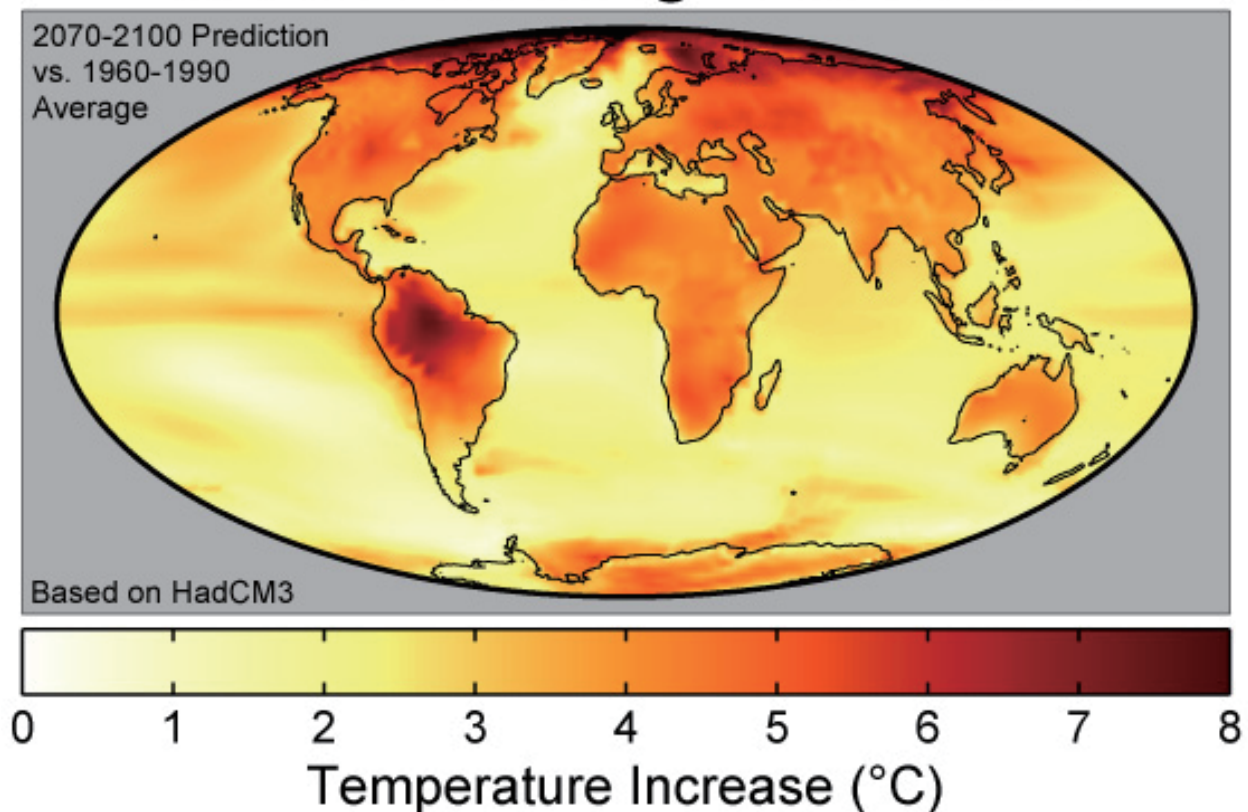


変動する地球：気候変動

ー地質学的視点から気候変動・地球温暖化を考えるー

地球温暖化による危機的状况について紹介するとともに、地質学的観点から気候変動問題について解説します

Global Warming Predictions



21世紀末期の地球温暖化予測図 (ICPP第4次報告書より)

講 師 / 宮下純夫 (北海道総合地質学研究センター)

北海道江別市出身, 北海道大学理学部卒業, 理学博士, 新潟大学名誉教授, 元日本地質学会会長.
北海道をはじめ世界中の現在及び過去の海洋地殻の研究に従事

日 時 / 2019年12月7日(土) 13:30-15:30 (13:15 開場予定)

会 場 / かでる 2.7 北海道立道民活動センター(札幌市中央区北2条西7丁目310会議室)

参加費 / 1,000 円 (高校生は半額) **参加定員 / 40 名**

申込期限 / 2019年12月5日 (参加定員まで余裕があれば前日まで受け付けます)

参加申込・問合せ先 / E-Mail: office@hrcg.jp Tel: 080-5830-2016

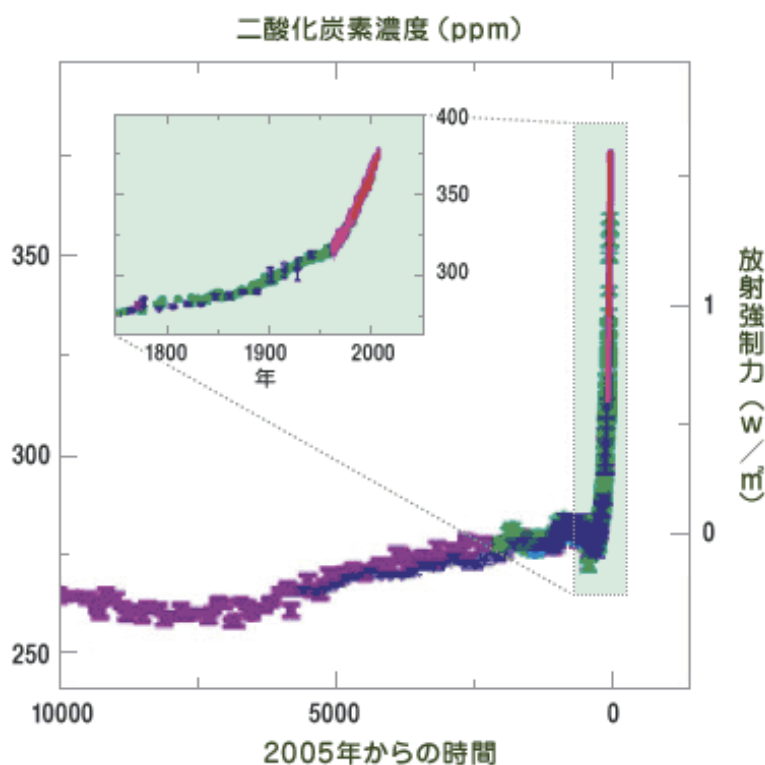
主 催 / 北海道総合地質学研究センター (HRCG) (<http://www.hrcg.jp/>)
(北海道地質調査業協会CPD証明書発行)

札幌市
さぼーとほっと基金
助成事業



講義の概要

現在、地球温暖化が急速に進行しており、異常な大雨や高温現象などが大きな問題となっています。その要因は、化石燃料の大量消費に伴う炭酸ガス濃度の増大によっていると考えられています。そのため、炭酸ガス濃度の増大を抑制するために様々な取り組みが行われています。一方、大規模な気候変動は、巨大火山噴火によっても生じます。江戸時代の天明飢饉や人類が滅亡の危機に瀕したといわれるトバ事変など、巨大火山噴火は急激な気候変動を引き起こし、人類に大きな影響を与えてきました。ところで地質学的観点から見ると、現在は第四紀と呼ばれている地質時代ですが、実は第四紀というのは大陸氷床が存在していることによって定義づけられています。つまり現代は地質学的にいうと氷河時代であり、その中での間氷期という温暖な時期に我々は生活しているのです。第四紀は氷河期と間氷期の反復が続いており、近未来には氷河期がやってくることは確実です。本講座では地球温暖化について紹介するとともに、地球史的観点から気候変動問題を解説します。



大気中の CO₂ 濃度の経年変化
(ICPP 第4次評価報告書より)

講演者のプロフィール

宮下純夫 (みやした すみお)

北海道総合地質学研究センターシニア研究員、同理事、新潟大学名誉教授

略歴

北海道江別市生まれ

1970年 北海道大学理学部地質鉱物学科卒業、1979年 同大学院博士課程修了

1984年 新潟大学理学部・自然科学研究科にて教育・研究に従事、北海道や太平洋、インド洋、オマーンを中心とした世界各地の過去及び現在の海洋地殻の研究に取り組む。

2018年、故郷北海道へUターン、江別市在住

